



長泉寺開山 500 周年 / 「^{けちえんかんじょう}結縁灌頂」開壇記念

せん ずい しん みょう ず
山 水 晨 明 圖

画・森山知己
施主・原田清子

六曲屏風『山水晨明圖』には、夜明けを迎えた岡山平野の北郊三山と旭川が描かれる。永正6年(1509年)、旧三野郡南方村に開山した薬園山長泉寺の創建500年を記念して今秋、結縁灌頂の秘儀を開壇。その祈りの道具として受戒者の一人・原田清子氏より施入。吉備中央町在住の日本画家・森山知己画伯の大作である。
(高さ 1720mm 幅 3750mm)

時代を超え 備前国長泉寺を描く

屏風図上方に描かれるのは金山寺、笠井薬師、法界院、福輪寺（現在の妙善寺）。岡山において、古来より「みほとけの山」と信仰される山上伽藍である。

その間を流れる大川が「旭川」となったのは江戸時代。その後、城下町が築かれ、都市化されてきた。

旭川をはさんで南方村長泉寺、北方神宮寺山や東岸に国府、楳村などが描かれている。



長泉寺はまだ旭川に土手のない時代（室町年間）、川のほとり、山の中につくられた。山は薬草園で「薬園山」を名のった。

本尊は薬師瑠璃光如来。夜明け方、東方浄瑠璃光世界から輝いてくる。屏風図の空が東の方から明けそめているのは「薬師信仰」を示している。

図画には備前国々宮の「薬草園」の中に、現在の伽藍が描かれる。寺僧は「いくちよも佛の長きいづみ寺 参るその身を 汲んで助けむ」と詠歌を唱える。この地より医学の先進県「岡山」が始まったとも称されよう。



先師、檀信徒らの努力があつて、今日「五百年」を迎えた長泉寺。草創当時に夢見たものがどうであったか……。まだ発展途上にあるという他ない。この屏風が往時をしのぶよすがになれば幸いである。

感謝のこころ

森山知己画伯の作品『吉備悠久』に出会った。めざましい、と思われたが、その後、日本画琳派の名手であることを知り、長泉寺五百年記念屏風を描いていただいた。真言寺院、密教儀礼に必要な図絵で、その旺盛な創作力と浩瀚な知識、感性で見事、わが予期以上の『山水晨明圖』を仕上げていただいた。

檀徒・原田清子女史が奉納のかたちをとって下さったのもよこびである。

願主 合掌